

A Challenging Job

明日へ未来へつながる農業〈最終回〉

カーネーションはナデシコ科の多年草で、苗を植えてから花が咲き始めるまで約半年。以後1~2ヶ月に度のペースで約1年間にわたり収穫できます。「業者から購入する苗選びが一番難しいですね」と関島さん。ひとくちにカーネーションといつても色や形、大きさが千差万別な上、品種によって耐病性・好みの気温・肥料の量などが異なるのです。農家では市場評価や栽培のしやすさ、自分の感性などを考慮しながら次のシーズンに挑戦する苗を決めます。関島さんは小ぶりの花を多くつける「スプレータイプ」を中心栽培。父親の代から栽培を続いている得意な分野で、毎年10種類前後を育てています。



仲間とのつながりで国産カーネーションの未来を担う

カーネーション栽培 関島和幸さん(飯田市鼎名古熊)

地元の商・学と連携「夢かなえ隊」

関島さんが支部長を務めるJAみなみ信州青年部鼎支部(部員6人)は、地域活動にも力を入れています。これまで鼎地区内の幼稚園や保育園の食育活動に協力し、遊休農地で園児らと一緒に野菜作りを行う「畑の先生」として活躍していました。

2011年、地域の懇談会に出席したのが縁で鼎商工会青年部と協力関係に。遊休水田13haで餅米作りを始め、活動を充実させるために両団体による「夢かなえ隊」を2013年に発足させました。

同年10月の稻刈りには園児らに加えて飯田OIDE長姫高校の生徒も参加し、780kgの「夢かなえ米」を収穫。翌月の「鼎ふれあい文化祭」でにぎやかに餅つき大会を行いました。会場では、この餅米を使って地元菓子店が作ったロールケーキなども販売し好評を博しました。

こうした活動は広く注目を集め、昨年10月に水戸市で開かれた農業青年クラブの関東ブロック発表会では、同隊が長野県代表として実績を発表。「地域を元気に」という目標に向け、名産品づくりなど新たな試みも行いたいとの意気込みを示しました。



◀隊員たちが園児らと一緒に「夢かなえ米」を収穫

記事に関する問い合わせ

●飯田市農業振興センター ☎0265・21・3217

記録的な大雪の影響が残る2月末。飯田市鼎名古熊の関島和幸さん(35)のビニールハウスでは、ぽかぽかと暖かい室内で身の丈近くまで伸びたカーネーションが深紅の花を咲かせていました。

関島さんは都内の市場や園芸店で経験を積んだ後、24歳で帰郷し家業の花き栽培を継ぎました。父の武俊さんは飯田下伊那のカーネーションハウス栽培ではパイオニア的存在。そんな父と共に働きながら10年間、歩一步経験を積んできました。「まだ10回しか栽培を経験していない」と笑います。現在は5棟合わせて約25haのハウスで年間35万本を出荷しています。

鮮度と美しさで勝負

カーネーションの出荷量は、2位の愛知県、3位の兵庫県を抑えて長野県が全国トップ。飯田下伊那のハウスカーネーションは6~8月が出荷の最盛期です。書き入れ時であるはずの母の日(5月第2日曜日)に間に合わなくていいのでしょうか? 素朴な疑問に関島さんが答えてくれました。「その時期は、温暖な他の産地から大量に出荷されてくるから競争が激しいんです。それよりは、夏場から秋に向かってが需要もあり、信州産の強みを生かせるんですよ」。全国のカーネーション産地は、互いに出荷時期をずらす連携プレーで市場への通年供給を実現しているのです。

関島さんは近年、フェイスブックなどを活用して全国の若手生産者との交流を深めています。今年1月には生産者ら270人が集まつた「全国カーネーション静岡大会」に出席し、国産カーネーションが経過したハウス。五感を総動員して苗の状態を確かめます



◀クリスマスやバレンタインデーに人気の品種「ロワイヤル」。「思い通りの花を作れた時には達成感がありますね」と関島さん

TTP(環太平洋戦略的経済連携協定)が盛んに議論されていますが、切り花の輸入関税はどうの昔に撤廃されてしまう。国内の生産者が減れば、ますます安い外国産に押されてしまふでしょう」と関島さんは危機感を強めています。国産カーネーションは、収穫日の2日後には全国の店頭に並ぶので鮮度に優れ発色の良さやしなやかさが魅力。「カーネーションに限らず、国内の花業界全体で花が身近にある生活をPRして、花業界を盛り上げたい」と生産者発信の活動にも力を注いでいます。日本育ちの「ヤマトナデシコ」の未来は、若い生産者たちの肩にかかるのです。